

# 全国学習状況調査に見られる香港日本人学校中学部生徒の特徴

前香港日本人学校中学部 校長

静岡県静岡市立井宮北小学校 校長 佐藤 栄 至

キーワード：全国学習状況調査、香港、学習習慣、学校生活、自尊意識、規範意識

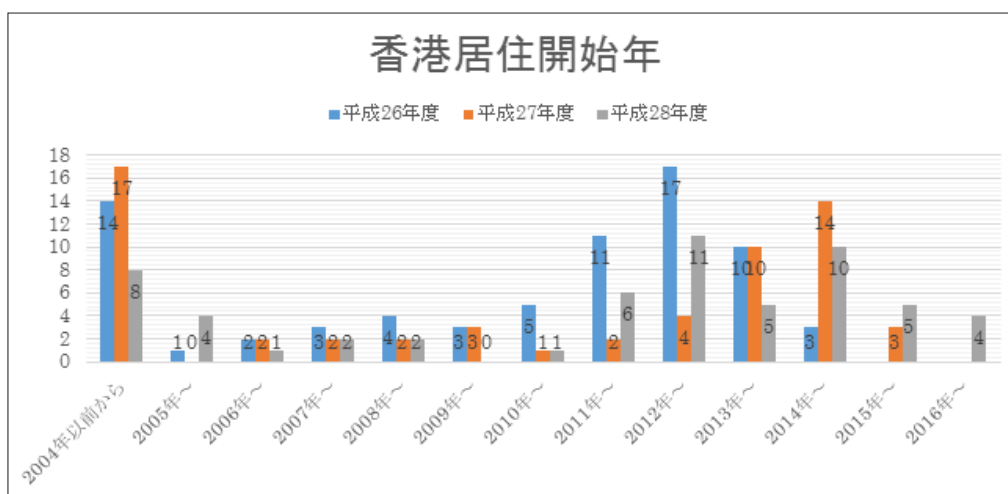
## 1. はじめに

平成26年度から28年度にかけて、香港日本人学校中学部に縁あって赴任した。在外教育施設で学ぶ生徒の実態を明らかにするために、また年度ごとの教育施策の成果と課題を検証しその改善を図るために、全国学習状況調査を実施することを通して、日本全国との比較を試みた。この調査結果は、学校便りに掲載し保護者にも周知することで、より良い学校を共に作り上げていく1つの手段としても活用した。本レポートでは、特徴的な部分に絞って報告する。なお、学力調査は問題漏洩の危険性があるため、実施しなかった。

## 2. 調査の実施時期、調査対象生徒人数

平成26年度：12月下旬 70人、平成27年度：5月中旬 58人、平成28年度：5月中旬 56人

## 3. 生徒の実態



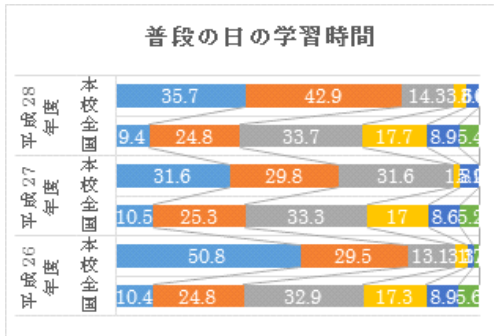
このグラフは、香港に住み始めた年を調べたものである。幼稚園入園（それ以前からも含む）から居住する生徒（～15年間）、小学校から居住した生徒（6年～9年間）、中学校から住み始めた生徒（1～3年間）と3分割してみると、平成26年度は21%、38%、41%、平成27年度は32%、23%、45%、平成28年度は25%、42%、32%となっている。1～3年間と香港居住年数が短い生徒も多く、10年間以上居住している生徒も多くいることが分かる。

## 4. 全国学習状況調査結果と分析及び考察

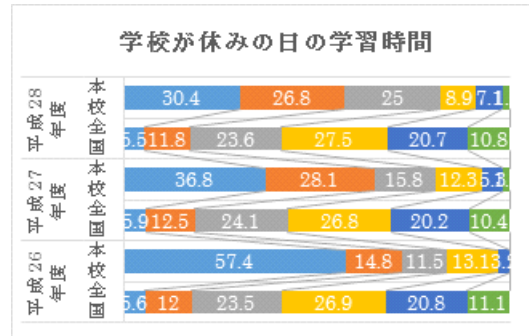
### ①学習習慣に関して

もっとも大きな差が見られた項目が、学習時間である。普段の日も学校が休みの日においても、圧倒的に本校の生徒の方が学習時間が多い。家の周囲で遊ぶことができない環境にあることや、部活動の実施日や時間が本校の方が少ないこともあるだろうが、保護者の期待が大きく、進学に向けての意識が高いことが主因だと思われる。多くの生徒が、学習塾に通塾し夜遅くまで学習に打ち込んでいる。（資料①②）

資料①

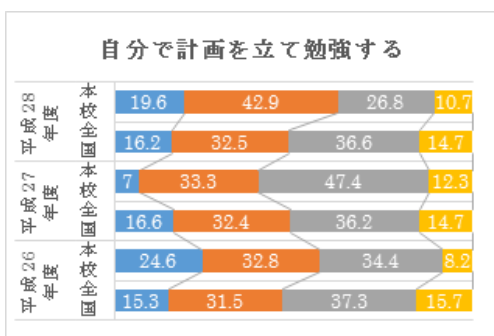


資料②

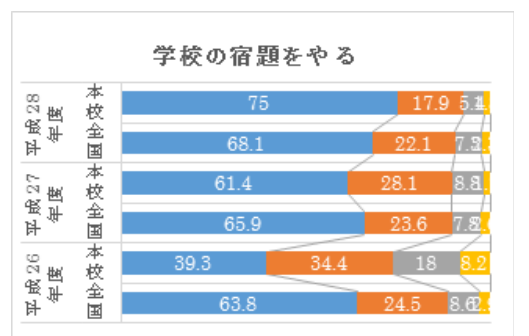


資料③「自分で計画を立てて勉強する」と資料④「学校の宿題をやる」の項目に関しては、学校の指導が成果を上げてきた表れである。一見平成26年度本校生徒の表れがよく見えるが、実はこの年度に限り本調査を12月下旬に実施しているからであり、この時期の3年生はまさに受験態勢の真っ直中にいたからだと思われる。資料①②で見たように、本校の生徒は確かに学習時間も長く頑張っているが、問題解決の過程よりも結果そのものへの関心が高い傾向があった。また、学校の子・復習や宿題よりも、はるかに塾の宿題や予・復習を重要視していたのが本校の生徒の姿であったように思う。その実態を捉え、様々な異なる個性を生かし、多くの意見をぶつけ合い、多様な友達との協働を重視するよう授業そのものを見直すことにより、生徒の学習に対する意識を改善しようと学校をあげて取り組んできたことが、このような結果に表れたのだと思われる

資料③

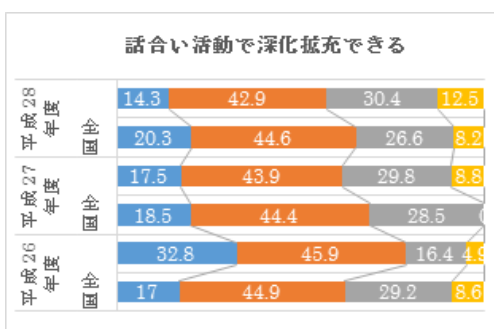


資料④

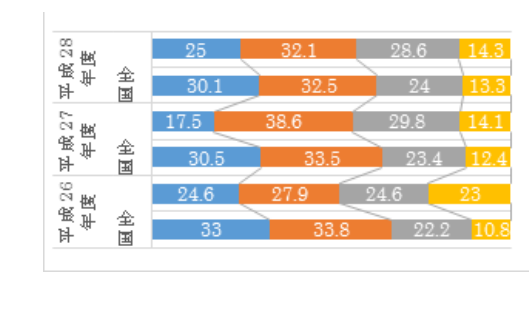


しかしながらその反面、資料⑤「説明したり文章を書くことは難しい」と感じる生徒の割合や、資料⑥「話し合い活動で深化拡充できる」と考える生徒の割合が、全国と比べ本校の方がまだまだ低いことは課題の一つである。これは、結論だけを早く知りたい本校生徒の傾向や現地校との交流活動や特別活動等でじっくり時間を取ることができない学校の体制によるものかと思う。

資料⑤



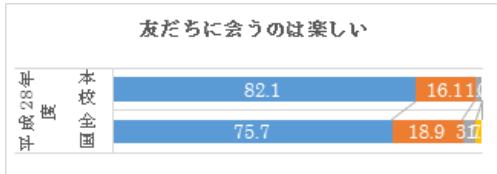
資料⑥



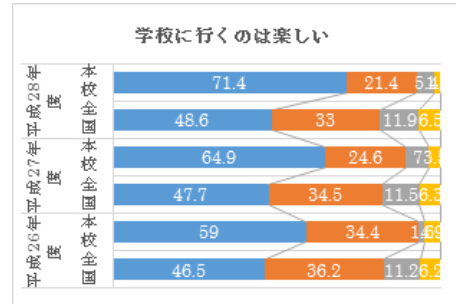
②学校生活に関して

両項目において、全国よりも楽しく感じている生徒の割合が多いのはうれしいことである。これは、香港が治安がいいとはいえどもやはり外国であり、同年代の日本人との交流の場が学校に限られるという現実が大きいと思われる。しかし、その反面楽しく感じられない生徒がいることを肝に銘じる必要がある。

資料⑦



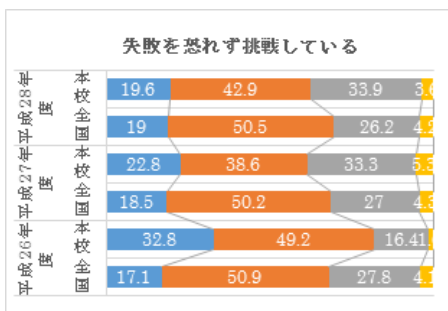
資料⑧



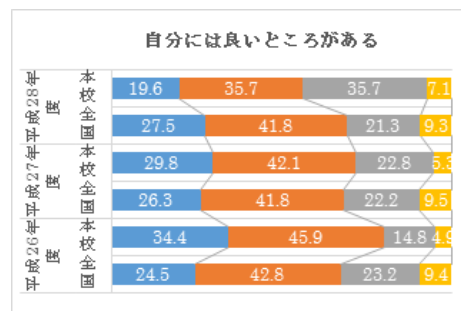
③自尊意識に関して

資料⑨「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦している」生徒の割合は、各年度とも『当てはまる』と答えた生徒は多いものの『どちらかといえば当てはまる』と答えた生徒が少ない傾向がある。また、資料⑩「自分には良いところがある」と自己肯定感がある生徒の割合は、平成26・27年度は全国に比べ高い結果が出ているが、平成28年度において逆転してしまっていることが残念である。

資料⑨



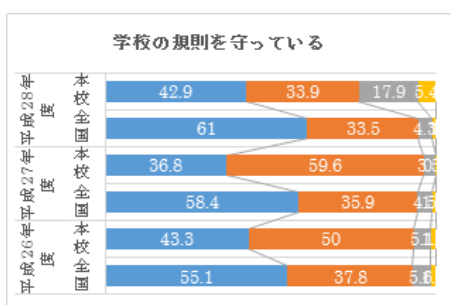
資料⑩



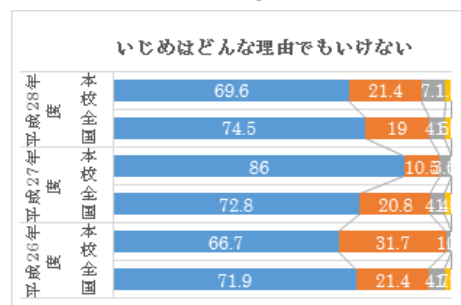
④規範意識に関して

資料⑪「学校の規則を守っている」項目においては、3年連続全国を大きく下回っている。通学バスでのシートベルト着用や携帯電話使用禁止等の規則違反を意識していると思われる。資料⑫「いじめ」に関する意識が低いことは、指導が必要な項目である。資料⑬では、海外では自己の安全を最優先せざるを得ないため、致し方ない面があると思われる。

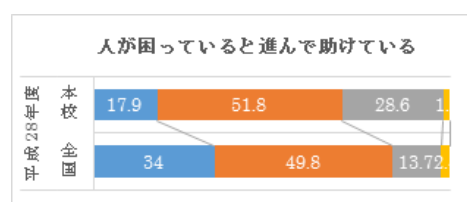
資料⑪



資料⑫



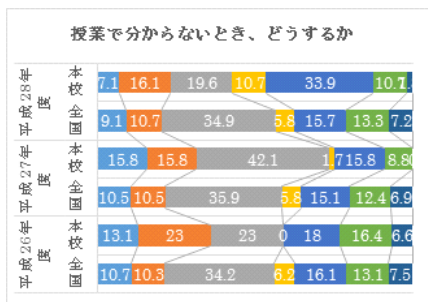
資料⑬



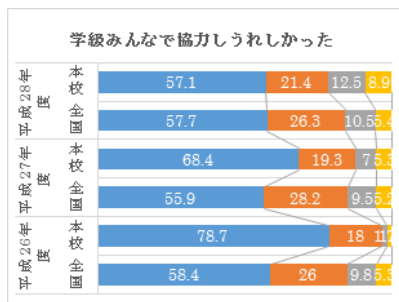
⑤その他

資料⑭「授業でわからないとき」の問いに対し、本校の生徒は「その場で先生に尋ねる」「授業後に先生に尋ねる」割合が全国よりも高い。また、資料⑮「学級みんなで協力してうれしかったことがある」割合は、平成28年度では少し低い、過去2年においてはかなり上回っている。この結果は教師の日々の取組の結果と思われる。

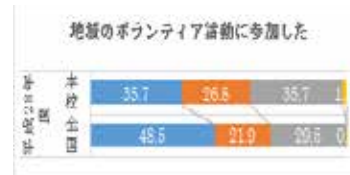
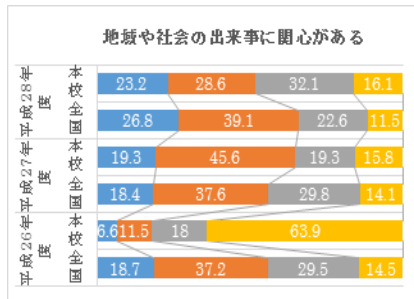
資料⑭



資料⑮



⑥在外教育施設に在籍するが故に全国の割合に比べ低いと類推できる項目



地域行事に参加する割合が低いことは、致し方ない。地域や社会の出来事への関心が高まっていることは指導の成果と思う。

5.おわりに

本校の生徒は、3. 生徒の実態で見たように、様々な生育歴をもっている。フランスで生まれ、アメリカで幼児期を過ごし、小学校中学年は日本の学校で生活し、中学生になって香港に来た生徒もいる。何度も転校を重ねた生徒もいれば、中学生で初めて日本を離れた生徒もいる。また、駐在員の子弟が多いことも本校の特徴であるが、そのような家庭の多くは母親が主婦として子どもの面倒を見る時間が十分ある一方、父親は単身中国本土で仕事をこなし、週末のみ香港に戻る生活を送っている家庭も少なくない。そのような多様な生育歴をもつ生徒の集団が、在外教育施設に在籍していることを教員は忘れてはならない。

本校では95%近くの生徒が日本にある高等学校への進学を希望する実態がある。海外枠といった入試制度を有効に生かしつつ、名門校やグローバルな高校を目指しているため、学力に関する意識が保護者のみならず、生徒にも高いのも事実である。

今回の調査では、予想していたほど日本の結果と異なる項目が多くはなかったし、年度毎の特徴も大きな差異はなかったと感じる。それは比較的治安が良く、日本からも近く、親日的な香港という土地柄が大きな要因と思われるが、どのような環境にあっても子どもには子どもらしく生活できる強さがあるのではないかと推察する。

しかしながら、私たち在外教育施設で働く教員は、子どもたちが置かれている物理的なマイナス面を最小限に減じ、子どもたちのもっているパワーを最大限に発揮できる環境を、学校教育の中で創意工夫していく必要性を再認識した次第である。

最後に、在香港日本国総領事館や香港日本人商工会議所、学校経営理事会の皆様をはじめ、生徒達の健やかな成長のために日々ご尽力くださった全ての方々へ心より感謝申し上げます。